

Safety 安全衛生

鹿島の現場における安全衛生管理は、現場に関わるすべての従事者に対して行っています。専門工事に従事する協力会社の社員・作業員が、安全な設備と環境の中で無理のない行動で作業し、施工を進められるように、計画とリスク管理を行うのが元請である鹿島の責務です。

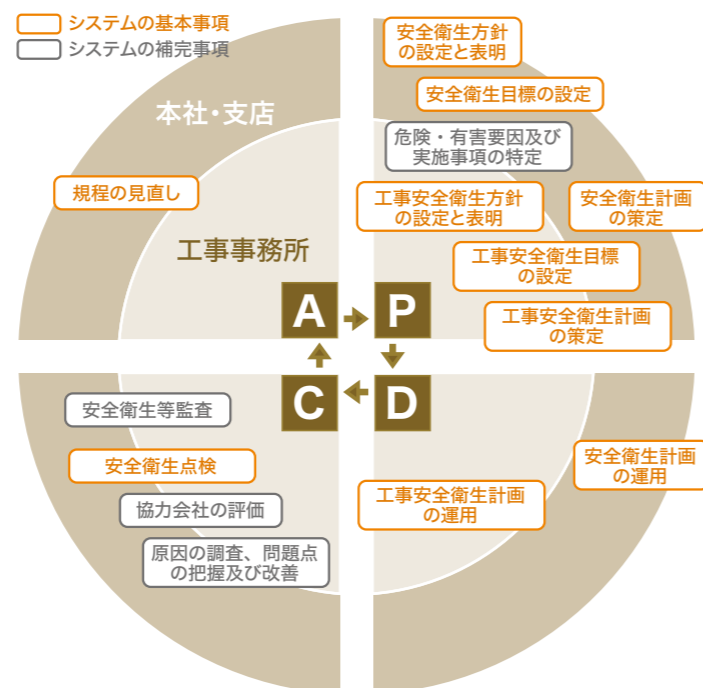
2013年度は、国内工事において死亡災害1件を含む80件(休業4日以上)の災害が発生し、度数率が休業4日以上災害について0.77、休業1日以上について1.67となり、強度率は0.10という結果になりました。残念ながら死亡・重篤災害ゼロを達成することができず、さらに安全第一の姿勢を徹底していきます。

マネジメントシステム

鹿島は、「建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)」に準拠して安全衛生管理を行っています。

前年度の実績や状況をもとに必要なに応じて安全衛生方針の見直しを行い、当年度の全社的な安全衛生目標と計画を策定するというサイクルを取っています。この「計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善

PDCAサイクル図



(Action)」というサイクルで策定された全社方針から、各工事事務所とそれを支援する本社・支店、そして協力会社のそれぞれ重点実施事項を絞り込みます。それらを基盤として、各現場では工事安全衛生方針・目標・

2013年度の取組み

2013年度は、安全衛生に関する管理体制に基づいた実効性のある仕組みの運用を目指し、パトロールや監査を行いました。特に前年度から開始した安全衛生等定期監査については、国内4支店と本社3部署に対して実施しました。支店と管下現場に対しては、本社・支店からの指示・通知事項や現場所長方針の浸透状況や、安全パトロールを含めた安全管理体制、労働安全衛生法・建設業法・労働者派遣法など関係法令の遵守、工種毎の事前検討会やリスクアセスメントなど災害防止活動や安全衛生教育、労働時間管理の実施状況について確認しました。また本社関連部署を対象とする監査では、各支店での監査結果を踏まえて、全社的に改善すべき事項や継続的に取り組むべき施策について評価・指導し、現場支援のあり方を直接見直す機会としています。今後も、全社における安全衛生管理の水準を向上させるべく、確実なPDCAサイクルによるスパイラルアップを図っていきます。

計画を立て、鹿島と協力会社がそれらを共有して施工を進めています。さらに現場では三現主義に基づいて、パトロールを繰り返し、安全衛生水準の継続的な向上を目指しています。

それぞれの指摘事項を共有した上で継続的なチェックがスムーズに行われ、現場で見つかった不安全な状況や管理については、是正写真とコメントを書き入れて、適切なPDCAが行われ実効性を担保しています。2013年度は土木工事338現場、建築工事635現場で延べ5,673回のパトロールを行い、是正を必要とする指摘4,499件、優良事例1,892件が記録されています。本システムは、品質確保と管理のシステムとして紹介したPitPatともリンクしています。



安全環境読本を毎年発行
読本には優良事例を掲載。写真は使用時の注意事項を貼った実物を現場に展示した事例

安全成績の推移

	2010	2011	2012	2013
度数率 (休業4日以上)	0.66	0.82	0.76	0.77
度数率 (休業1日以上)	—	—	1.73	1.67※
強度率	0.02	0.58	0.40	0.10
災害件数	64	89	85	80
死亡者数	0	8	5	1
延労働時間(百万時間)	97.07	108.19	112.16	104.51

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、災害発生頻度を表したもの

強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重篤度を表したもの

※2013年度から統計化

パトロールの実効性向上

従来から三現主義を念頭に、多様な目で見ることが安全の追求に繋がるとして現場パトロールを実施しています。さらに本社や支店等で品質や機械電気といった各観点でも実際に現場で確認し、その実績を一元管理する「パトロールリレーシステム」を2012年度から導入し

綿密な計画と迅速な情報展開

施工計画を綿密に行うことは品質確保のステップとしましたが、これは同時に安全確保にもつながります。着工前に、現場の状況を踏まえて、施工方法や施工上のリスクを検討する事前検討会を行っています。この際に現場経験の豊富な管理職が本社・支店の立場から、それぞれの作業に潜む危険な要因や危険な環境、無理な状況などがないかを確認し、施工準備を行います。

また翌日の作業内容や動線の確認を行う作業間連絡調整会議では、リスクアセスメントの観点から専門職種間での作業がスムーズに行われるよう、確認作業を徹底しています。その結果をより迅速に現場内で共有するシステムを導入し始めており、今後、全現場に展開していきます。

無事故無災害を目指して

2013年度は1件の死亡災害を含む80件の災害が発生しましたが、それぞれの原因分析を今後の施工計画や現場管理に活かして、無事故無災害の達成を目指していきます。現場で働く一人ひとりが安全に対する意識を高く持ち、危険予知を行って、現場で働く全員が無事に日々の作業を終えるよう、現場運営を行っています。そのために必要な、安全衛生教育や、協力会社と一体となった取組みを継続して展開しています。

幅広い安全衛生教育

鹿島は、自社の社員に加えて現場で働く社外人材や専門工事にあたる協力会社に対しても現場における安全衛生教育を行っています。まず鹿島社員に対しては、現場経験に応じて3段階の安全衛生教育プログラムを組んでいます。2013年度は延べ14回、437名が受講しました。その際には、具体的な事例研究を通じて危険予知の意識を高めたり、災害や事故の原因を考えることで、施工計画等で盛り込むべき安全項目について確認したりしています。また、社外人材に対しては安全の基礎知識を確認するe-ラーニング受講後、より理解を深めるこ



協力会社に新CFT講座*の受講を推奨し、実際に鹿島のプログラム内で講師を務める(横浜支店)
*：新CFT講座：職長・安全衛生責任者教育講師養成講座



鹿島の現場に従事することが多い職長を対象とした職長能力向上教育(四国支店)

とができるように、各支店で集合教育を実施しており、2013年度は延べ17回、329名が受講しました。さらに、協力会社向けの教育としては、鹿島独自プログラムである職長能力向上教育を23回・計589名が受講、さらに職長・安全責任者教育に関しては、27回・計490名が受講しました。鹿島の現場に関わる人々が、無事故・無災害に向けて一体となって進めるように努めています。

鹿栄会とともに

鹿島は、協力会社約4,500社が加入する鹿栄会と共に、工事の円滑な遂行に努めています。鹿栄会とは、安全パトロールの実施や災害事例の共有、鹿島が発行する安全に関する資料の配布など災害防止活動を主な事業内容とする団体です。それ以外にも会報

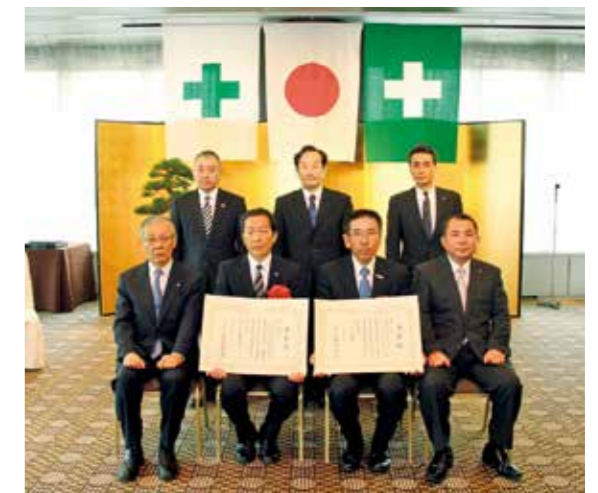
の発行や優良現場の見学、さらには各種研修会を通じて、会員企業同士の連携を図ると共に、鹿島と各社のコミュニケーション形成に努めています。また地域に密着して、地区ごとのニーズに合った活動を進めており、これからも鹿島と鹿栄会がベクトルを揃え活動を展開します。



社外からの評価

安全衛生・厚生労働大臣表彰優良賞を受賞

安全衛生成績が極めて高く他の模範となる優良事業場や、安全衛生水準の向上に貢献した功労者などに贈られる、2013年度「安全衛生・厚生労働大臣表彰優良賞」で、鹿島は「金町浄水場高度浄水施設(三期)築造及び送水管(2000mm)新設工事」と「(仮称)元赤坂Kプロジェクト」、「日立製作所 情報・通信システム社ソフトウェア事業部 事務所棟・共用棟・車庫新築工事」の3件が受賞しました。



優良賞を受賞した3現場はいずれも徹底した安全管理で全工期無事故無災害を達成

建設現場周辺における安全確保

建設現場には重機やトラックなど大型車両が出入りしています。朝の作業開始時間帯前後には特に集中し、近隣住民の方々の通勤・通学時間に重なることもあります。



地元小学生の通学路で交通誘導を実施している(三田坂トンネル工事・三重県)

現場に出入りするルートや時間帯を調整したり、現場周辺で警備員を配置して周辺の誘導を行ったりして、現場周辺を通行する人々の安全にも配慮しています。また、現場の仮囲いを工夫したり、清掃活動を行うことで環境整備にも努めています。



近隣の民家で雪下ろしに協力(神岡トンネル工事・岐阜県)